平成 31 年度　交通に関する三見地区意見交換会 議事要旨

日時：平成 31 年 4 月 25 日（木）　10:00～11:30
場所：三見公民館　研修室
事務局：萩市商工振興課、日本工営㈱
ご参加：住民の皆様 21 名

1.開会
事務局：開会の挨拶（省略）

2.挨拶（萩市商工政策部長）
山本部長：(省略)

3.議事
（1）資料１「萩市全域の公共交通の現状と課題及び基本方針（案）について」
　　資料２、３「萩地域の公共交通の課題と将来像（案）について」
事務局：資料 1、２、３を説明（省略）
意見交換：
参加者：旧萩市内の周辺地域の方は、病院や買い物に行くにしても、自宅から停留所や駅まで時間がかかる。白ナンバーの車に乗って燃料代とお礼程度を払ってタクシーの半額程度で、お隣の方に送迎を頼むような、特区的なスタイルの導入を目指して、市として検討いただけないだろうか。
事務局：自宅からバス停までの移動すら大変という声を聞く。方向性として様々な移動手段を組み合わせて交通ネットワークを構築していきたい。自宅から駅までの移動など、本来は緑ナンバーの交通事業者が担うべきであるが、過疎地域であれば NPO 法人や自治会等の任意団体でも自家用有償運送が可能な制度がある。
地域内の支えあいという観点で、三見地区の連絡協議会に市の公用車を貸している。そのスタイルは、萩市の中で先進事例と思っている。
近所の方の車に乗せてもらう場合は、輸送の対価ではなく、あくまで気持ちとしての謝礼とガソリン代実費であれば可能ではあるが、事故も遭った場合、互いに気まずい。また、それを仕組みとしてしまうと運輸局への届け出が必要である。特区ということであるが、自家用有償旅客運送という制度自体が規制緩和の結果である。

自家用有償旅客運送という制度であれば、それは解消される。地区社協が担うなど、出来るところから始めるということが望ましいと考えている。ただ、自家用有償運送には受け皿が必要であり、その部分が他地域でも課題である。

参加者：テレビで見たが、他県では移動に関してお互いに助けあいをやっている事例を見た。

事務局：仕組みとして作ってしまうと、運輸局への届けが必要であるが、運転者があらかじめ運賃を決めるのではなく、乗車した方が気持ちとして謝礼を渡すという助け合いの範囲であれば、運輸局への届出は不要。

参加者：白タクの話も聞いたことがあり、お互いに金銭のやり取りは不安に思っているため、助け合いの範囲を周知してほしい。

事務局：先日の広報で周知した（3 月 1 日号の広報コピー配布）ことはあるが、文章で理解頂くのは難しい面もある。地域コミュニティの中での助け合いは移動の大きな役割を担っている。

参加者：気軽に頼める状況ではないため、公共交通を利用して不便している。特に公共交通に乗るまでの歩行すら難しい人もいる。助け合いについては、ぜひ周知してほしい。

事務局：高齢者が外出をおっくうに感じない様、移動しやすい環境づくりは必要であると感じている。自治会など任意団体で自家用有償旅客運送を実施する場合、既存の交通事業者の路線の範囲外で特例的に輸送できる制度である。路線バスとの兼ね合いもありすぐに有償という形は難しいだろうが、まずは地域の受け皿の問題はあるものの、住民と協働した、高齢者が外出しやすいきめ細やかな環境づくりに取り組んでいきたい。

また、利用しやすい交通体系という形で、周辺部は運賃の割高感を軽減することも併せて福祉的観点から検討していきたいと考えている。

参加者：JR を利用しているが、三見からの JR の時刻（萩駅着）と、萩駅発のまぁーるバスの時刻が合っていない。列車到着と同時に発車するまぁーるバスを目の前で見ており、それが数年続いている。数十秒待ってもらうと助かるが、待つ運転士と待たない運転士がいる。大きい話もいいが、目先の本当に困っている部分のきめ細かい対応を望みたい。乗り継げなかったらタクシーを使わざるを得ない。

事務局：接続の部分は出来ていない部分も多々ある。その部分は見直していきたい。等間隔運行とし、利用しやすい観点でまぁーるバスのダイヤを設定しているが、対応しきれていない部分は今後見直しを考えているので、少々お待ちいただきたい。決して小さい話ではないと考えている。

参加者：ぐるっとバスについて、特例なので地区の限定があると言われたが、三見地区のみの運行というものを見直し、範囲を広げて運行して頂けないだろうか。

事務局：同じような要望を聞く。確かに、ぐるっとバスで地区外に行けたら便利がいいのは間違いないが、既存の路線バスで賄えない交通空白地をぐるっとバスで補っている。ご理解を頂きたい。

参加者：社会福祉に関わっているが、三見のぐるっとバスが機能的に動いていると紹介された。しかし、実は機能的に動いていないと思う。これは三見地区の者で工夫しないといけない部分ではあるが、数日前に聞いた話で、萩市合併前の旧市町村は運転士の方に市が報酬を払っていると聞いた。三見地区も同様となれば、それなりに円滑に運営できると思う。

また、萩市内を見れば、防長バスの路線に交じって、まぁーるバスが走っており、三見地区と比べると不公平感を感じてしまう。同じ市民税を払っている。

まぁーるバスと同じコンセプトで、三見にも同じ様に走らせてもらえないか。

事務局：三見のぐるっとバスの運営手法は、住民主体の有効な仕組みだと思い、先進的な例として紹介をさせてもらっている。各総合事務所のぐるっとバスとの兼ね合いであるが、合併時に交通空白地の対応ということで、ぐるっとバスが走り出したが、旧

市町村時代の流れを汲んで様々なスタイルで運行しており、三見地区の様なボランティアという形では持続は難しい。しっかり検討させて頂きたい。
まぁーるバスについては、防長交通と協議を行って、その補完として運行している。旧萩市内の内部地域のみの運行で、防長バスなどの路線バスとは機能分担をしている。

参加者：まぁーるバスは、観光だけでなく住民の足としてしっかり使われているので、三見も同様に生活支援としてまぁーるバスをお願いしたい。

事務局：まぁーるバスについては機能が違うということでご理解頂きたい。生活の足の確保という点でまぁーるバスという形に限らず三見地区においてもしっかり検討していきたい。

参加者：ここ数日、悲惨な交通事故が報道されており、今後免許返納がより盛んに言われると思う。より地域にとって細やかな対応を望みたい。

事務局：現状、公共交通は 1 割強の利用であるが、免許返納後は約 8 割の方が公共交通を利用したいと答えられている。早急に公共交通の利便性を向上させなければならないと考えている。

参加者：現在は公共交通の利便性が悪いから利用されていないだけだと思う。

事務局：利用者のニーズに応じていないということだと思う。実情を踏まえて調整したいと思う。路線バスの利便性向上という意味で、三見地区に入っている防長バスは、地域の方の要望で乗り入れが始まったと聞いている。他市町村では集落内ではフリー乗降を導入している地域もある。三見市は本数があり利便性があるので活用できると思う。また、JR とバスを使い分けている例もある。既存の公共交通の利便性を向上させることも考えていきたい。

参加者：防長バスは三見駅を過ぎたら青海大橋方面への乗客は、ほとんどいない。三見地区の住民で支えられている路線ではないか。

事務局：利用者の居ない部分は事業者と調整していく。利用者負担の割高感については高齢者福祉の観点で、外出しやすく公共交通の利用促進につながる形で、乗りやすい仕組みを考えていきたい。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上